



森下仁丹

株主の皆様へ

第86期

中間事業報告書

2022年4月1日から2022年9月30日まで

森下仁丹株式会社

証券コード：4524



株主の皆様には平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

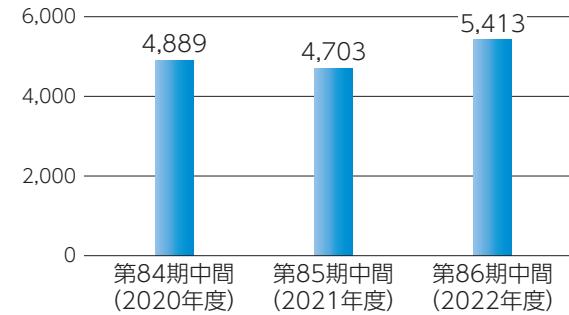
ここに当社グループの第86期中間期（2022年4月1日から2022年9月30日まで）の事業の概況をご報告申し上げます。よろしくご高覧賜り、今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

森下 雄司

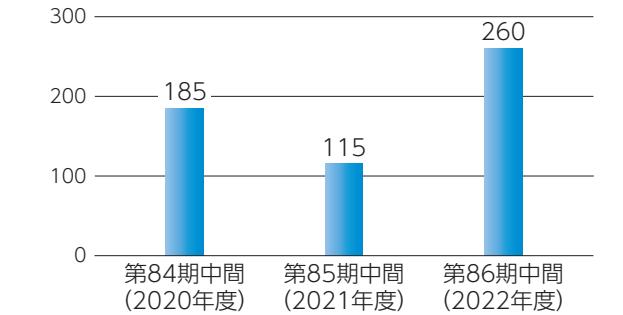
売上高

(単位：百万円)



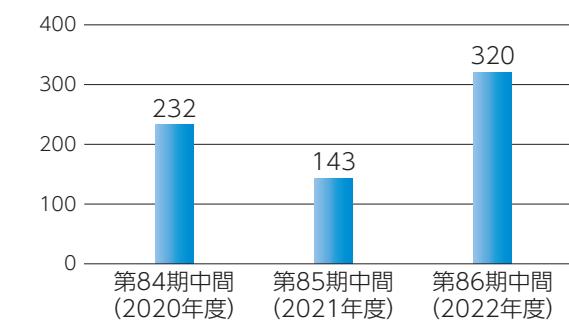
親会社株主に帰属する中間純利益

(単位：百万円)



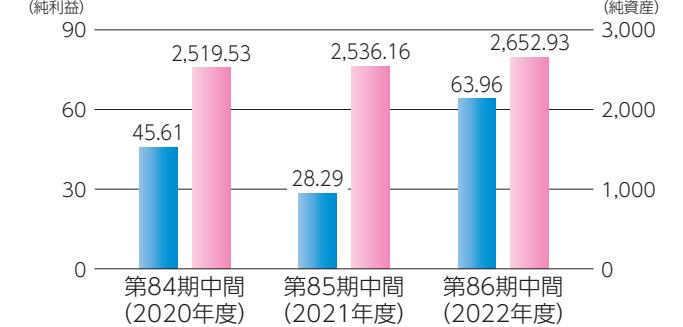
営業利益

(単位：百万円)



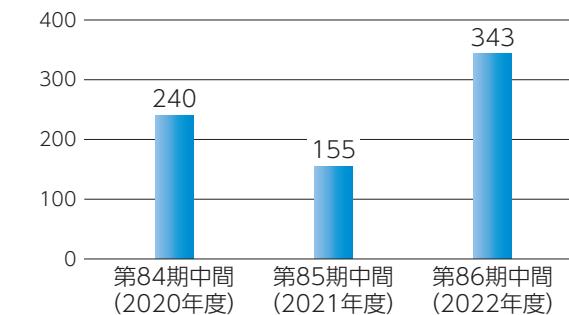
1株当たり中間純利益・純資産

(単位：円)



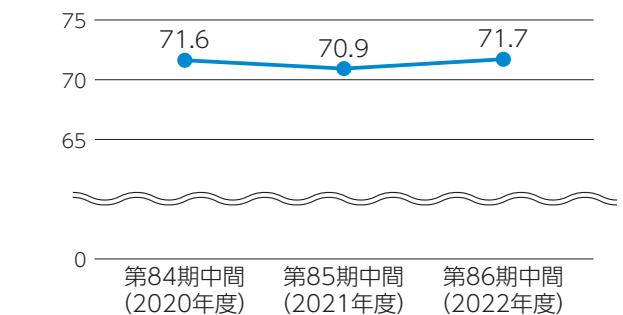
経常利益

(単位：百万円)



自己資本比率

(単位：%)



01 事業の概況について

当中間連結会計期間におけるわが国経済の景気は、緩やかに持ち直しております。個人消費は、まん延防止等重点措置の終了を受けて、対面型サービスを中心に回復しております。消費者物価上昇率（生鮮食品を除く総合）は、エネルギー価格の高止まりが続く中、食料（生鮮食品を除く）の伸びが高まったことに加え、携帯電話通信料の値下げの影響が縮小したことにより、2022年9月には前年比3.0%まで伸びを高めました。

当社グループの属する業界も、異業種を含む大手企業の新規参入など更なる競合激化は続いており、当社グループを取り巻く環境は依然として厳しいものとなっております。さらに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大及びウクライナ情勢による事業への影響については、予断を許さない状況であるため、今後も注視してまいります。

このような経済状況のもとで、当社グループは、引き続き積極的に事業を展開しております。当中間連結会計期間においては、かねてより参入していたジェネリック医薬品の分野で、2022年2月に日本国内における製造販売承認を取得した高脂血症治療薬（一般名：オメガ3脂肪酸エチル）が2022年6月に薬価収載され販売を開始いたしました。

また、当社グループの健康理念のもと、長年蓄積してきた原料調達のノウハウを駆使し、開発した当社独自の機能性素材であるローズヒップエキスや、銀粒仁丹に用いたコーティング技術を発展・応用させたシームレスカプセル技術を駆使したフレーバーカプセルの販売が堅調に推移しております。

この結果、当中間連結会計期間の経営成績は、売上高5,413百万円（前年同中間期比15.1%増）、営業利益320百万円（前年同中間期比123.8%増）、経常利益343百万円（前年同中間期比120.4%増）、親会社株主に帰属する中間純利益260百万円（前年同中間期比126.3%増）となりました。

ヘルスケア事業

「セルフメディケーション」の推進を目指して

創業者・森下博は、「飲みやすく、携帯・保存に便利な薬を作りたい」という思いで「仁丹」を開発しました。「健康とともに安心と安全をお届けする」この健康理念のもと、原料を厳選し、優良品を製造することを志するその思いは今も受け継がれ、独自のシームレスカプセル技術とこだわりの品質の製品を、毎日健康で過ごしたいと願う全てのお客様にお届けしています。

当セグメントにおきましては、高脂血症治療薬（一般名：オメガ3脂肪酸エチル）の販売を開始し、ジェネリック医薬品の安定供給を目指しています。また、それに加えて当社独自の機能性素材であるローズヒップエキスでは、採用されたアイテムが増えたこともあり、売上高は、4,055百万円（前年同中間期比12.1%増）となりました。損益面では、ジェネリック医薬品の増産体制移行に伴う費用増や、原油価格の上昇等により、セグメント利益は、67百万円（前年同中間期比57.8%減）となりました。

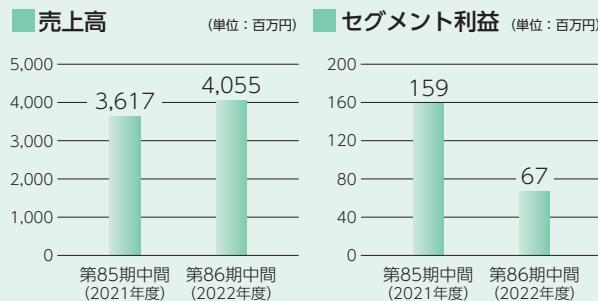
売上高

ヘルスケア事業
4,055
百万円

74.9%

売上高構成比

12.1%増
(前年同中間期比)



カプセル受託事業

医薬品から食品、産業用まで進化し続けるシームレスカプセル技術

「液体の仁丹を作れないか」その思いから開発が始まり、今では当社のコア技術として発展した「シームレスカプセル技術」。粉末、液体、微生物など様々なものを包むことができ、また、皮膜の調整により、ドラッグデリバリーシステムを実現する医薬品から、食品、産業用まで様々な分野への展開が可能です。

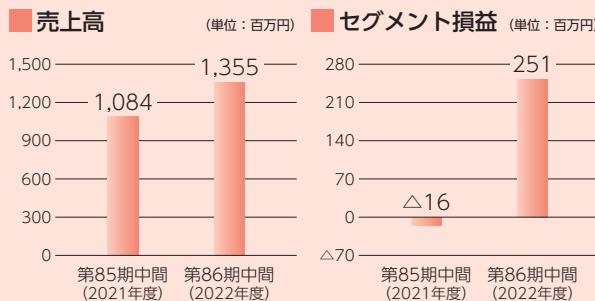
当セグメントにおきましては、フレーバーカプセルの販売が前年同中間期と比べ増収となりました。また、産業用途でのカプセル開発にも長年取り組んできた結果として、外部との共同研究により、当社独自のシームレスカプセル技術を用いた化粧品カプセルの開発に成功しました。今後も当社独自のシームレスカプセル技術を日本のみならず国外においても展開していくことにより、社会課題解決への取り組みをグローバルニーズへと広げることができると考えています。この結果、売上高は、1,355百万円（前年同中間期比25.0%増）となりました。損益面では、効率的な生産活動と研究開発投資に努めたこともあり、セグメント利益は、251百万円（前年同中間期はセグメント損失16百万円）となりました。

売上高

カプセル受託事業
1,355
百万円

25.0%

25.0%増
(前年同中間期比)



中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当中間連結会計期間 (2022年9月30日現在)	前連結会計年度 (2022年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	6,581	6,258
固定資産	8,513	8,221
有形固定資産	4,438	4,474
無形固定資産	400	458
投資その他の資産	3,674	3,288
資産合計	15,094	14,479
負債の部		
流動負債	2,380	2,130
固定負債	1,884	1,893
負債合計	4,264	4,024
純資産の部		
株主資本	9,332	9,218
その他の包括利益累計額	1,497	1,237
純資産合計	10,830	10,455
負債・純資産合計	15,094	14,479

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

	当中間連結会計期間 (2022年4月1日から 2022年9月30日まで)	前中間連結会計期間 (2021年4月1日から 2021年9月30日まで)
売上高	5,413	4,703
売上原価	2,841	2,322
売上総利益	2,572	2,380
販売費及び一般管理費	2,251	2,237
営業利益	320	143
営業外収益	24	17
営業外費用	1	4
経常利益	343	155
税金等調整前中間純利益	343	155
法人税、住民税及び事業税	72	36
法人税等調整額	10	4
中間純利益	260	115
親会社株主に帰属する中間純利益	260	115

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当中間連結会計期間 (2022年4月1日から 2022年9月30日まで)	前中間連結会計期間 (2021年4月1日から 2021年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	547	510
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 160	△ 328
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 302	△ 398
現金及び現金同等物の増減額	84	△ 216
現金及び現金同等物の期首残高	2,138	2,703
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,223	2,487

TOPICS

1

カプセル技術による価値創造

雪印メグミルク株式会社 KAORUヨーグルト に採用されました

2022年9月に雪印メグミルク株式会社より発売された『KAORUヨーグルト』に、当社カプセルが採用されました。レモンミント味のフレーバーを閉じ込めたカプセルは、噛むとプチッと弾け、清涼感のあるフレーバーと食感が楽しめます。

当社は、今後もあらゆる産業の企業とパートナーシップを結びながら、カプセル技術を活用した製品開発を進めてまいります。また、食品用カプセルの研究及び製品開発を拡充・発展させ、培った技術を産業用・医薬品カプセルに応用するサイクルを形成して、社会課題の解決に向けた価値の提供を続けてまいります。



KAORUヨーグルト はちみつ

KAORUヨーグルト アセロラ

役員

代表取締役社長	森 下 雄 司	取締役(社外取締役) (監査等委員)	石 黒 訓
取締役 (社外取締役)	末 川 久 幸	常務執行役員	石 田 英 嗣
取締役 (社外取締役)	檜 山 敦	執行役員	地 主 紀 之
取締役 (常勤監査等委員)	光 永 健 治	執行役員	吉 田 秀 章
取締役(社外取締役) (監査等委員)	石 原 真 弓		

05

TOPICS

2

CSR活動の一環として献血活動、地域でのイベントに取り組んでいます

◆長年の献血活動について厚生労働大臣より感謝状が贈呈されました

当社 健康保険組合は1926年(大正15年)に設立され、人々の健康に寄り添うヘルスケア企業としての活動はもちろん、従業員とその家族の健康へも目を向け健康保険組合の活動を推進しています。

血液不足の解消に貢献したいとの考えから、1984年より献血活動への協力を続けています。献血バスの積極的な誘致や近隣の献血会場リストの配布、地元企業などと合同開催される献血活動への参加など大阪・滋賀・東京の各拠点の状況に合わせて献血活動に取り組んでまいりました。この活動について、厚生労働大臣及び滋賀県赤十字血液センター長から感謝状が贈呈されました。



◆子どもたちがうんちの大切さについて学べるイベントを実施

2022年9月24日(土)・25日(日)に地方独立行政法人 天王寺動物園と初の共同イベントを開催。また、2022年10月23日(日)にもりのみやキューズモールBASEで開催された「第2回 もりのみやキューズモールBASE カラダ健やかフェスタ」に参加しました。

当社は、便と密接に関係する腸内環境を整えることの大切さについて啓発活動を行うとともに、幼少期から体に興味をもてるような情報発信を行うことで健康について考える機会を提供していきたいと考えています。



天王寺動物園との共同イベントのようす



カラダ健やかフェスタのようす

06

ネットワーク

Network

商 号	森下仁丹株式会社 MORISHITA JINTAN CO., LTD.	
資 本 金	35億3,740万円	
事 業 の 内 容	医薬品、医薬部外品、医療機器、化粧品、食品及び雑貨等の製造販売	
事業所及び工場		
本 社	大阪府中央区玉造一丁目2番40号	電話 (06) 6761-1131 (代表)
大阪テクノセンター	大阪府枚方市津田山手二丁目11番1号	電話 (072) 800-1040
滋 賀 工 場	滋賀県犬上郡多賀町大字四手諏訪960番地12	電話 (0749) 48-7370
東 京 オ フ ィ ス	東京都千代田区神田富山町10番地2 アセンド神田ビル6F	電話 (03) 6206-8138

株主メモ

事業年度末日 3月31日

期末配当金
受領株主確定日 3月31日
(中間配当を行う場合 毎年9月30日)

定時株主総会 毎年6月

公告の方法 電子公告 (<https://www.jintan.co.jp/ir/>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告により行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

金融商品取引所 株式会社東京証券取引所 スタンダード市場

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
電話 (通話料無料) 0120-094-777

当社コーポレートサイトのご案内

当社コーポレートサイトで各種情報を公開しております。

是非一度ご覧ください。

<https://www.jintan.co.jp>



▲ トップページ



▲ IR情報